

生い立ち

子どもの時、わたしはおもちゃが大好きでした。両親は、わたしに愛を見せるために、いつもおもちゃを買ってくれました。わたしたちは普通の生活だったので、わたしがほしいおもちゃを買う前に、まず学校でいい成績を取らなければなりませんでした。両親からおもちゃをもらうと、わたしはとても嬉しかったです。とくにポケモンのようにセットを全部あつめることができた時は、本当にがんばってよかったと思いました。

でも、人生はおもちゃをあつめることに少し似ています。全部をそろえることはできません。なくしてしまうおもちゃもあるし、こわれるおもちゃもあります。直せないおもちゃもあります。わたしの一番大切に大好きだったおもちゃがこわれた時、それは子どものころの一番悲しい思い出でした。どんなにがんばっても、元の形にもどすことができませんでした。

最近、その苦い思い出をまた感じました。父が亡くなったからです。どんなにがんばっても、薬や治療をしても、なおすことができませんでした。そして父は亡くなりました。その時、わたしは「さよなら」は本当に大きく、そしてかえらないものだと分かりました。

大人になると、たとえつらくても、現実を受け入れることを学びました。おもちゃは夢ににえています。こわれることもあるし、時間がたつと興味がなくなることもあります。成長するために、人にあげなければならない時もあります。そして、大切なピースがなくなって、もう全部をそろえることができないおもちゃもあります。今のわたしたち家族は、父という大切なピースを失ってしまいました。

簡単(かんたん)ではないし、考えるととても痛(いた)いですが、わたしはいつも「人生には試練や、なくすこと、かなわない夢がある。でも大事なものは、受け入れて、立ち上がって、前へ進むことだ」と自分に言います。大切なものをなくしても、その思い出はずっと心の中にあります。

父は、わたしがたくさんの夢を持っていたので、外国で働くことを応援してくれました。その夢の一つは、日本で大きなピカチュウのぬいぐるみを買うことです。だから、わたしはケンジミンでの勉強を、夢をかなえるため、そして父の応援にこたえるためにがんばっています。